

松本市教育研修センターだより

No.28 令和6年7月31日

「結」まつもと学びの日 松本市全教職員研修

7月25日(木)。「結」まつもと学びの日が、まつもと市民芸術館にて開催されました。創立140周年を迎えた松本市教育会と共催で行ったこの研修会には、松本市内の小中学校で子どもの学びに関わ



る全ての教職員およそ1500人が参加されました。これだけの方々が一堂に会する学びの機会を実現いただいた松本の先生方の底力と心意気の大きさが、あらためて実感されました。この日に参加して下さった多くの教職員の皆様、この日を迎えるにあたり準備をして下さった関係者の皆様、そしてステージで講話・講演をして下さった伊佐治教育長、木村泰子先生、たくさんの人の力が集まった素敵な日となりました。厚く御礼申し上げます。

伊佐治教育長の講話

「教育長講話」では、伊佐治裕子教育長より松本市が「学都」とよばれる背景、現在の子どもの状況や課題、そして以下のような松本市の取り組みについて語られました。

- ・令和5年度より本格始動した市独自の教職員研修
- ・県内初となるインクルーシブセンターの開設
- ・松本デュアルスクール事業
- ・主体的な学校づくり支援としてのリーディングスクール事業

さらに、伊佐治教育長は、教育長として大切にしたいことを3つ挙げられました。

- 子どもの権利条例を持つまちとして、子ども一人ひとりの尊厳を大切に、子どもが、その子らしく健やかに成長し、可能性を伸ばしていくことのできる学校づくり
- 先生方が思い切り子どものための教育実践に取り組めるような職場環境と学び(研修)。先生のやりがいを出し、松本市の全ての学校を、楽しく魅力的で柔らかい空気をもつ学校に
- 近代教育の黎明期から連綿と続く、子どもの学びを大切に考える「松本の市民性」を次代に継承していくため、市民がいつでも、自由に学び、必要な情報が得られ、語り合うことができるまちづくり

子どもが主人公・学都松本のシンカに向け、伊佐治教育長の力強いメッセージを約1500人の教職員が受け取りました。

教育会研究委員会等報告

続いて、教育会の各研究委員会からの報告がありました。教科等研究委員長や事務研代表、養護教育部代表が、それぞれの取り組みを紹介しました。学校を超えて先生方が集い、子どもを主人公とした学びの実践から語り合い、教育観・子ども観をアップデートしていく取組みの様子を松本市の全ての教職員が共有する機会となりました。



木村泰子先生による講演

大阪市立大空小学校初代校長の木村泰子先生を講師に迎え、「子どもの事実からみんなで学校づくりを問い直しませんか～すべての子どもの学習権を保障する学校をつくるために～」のテーマのもと講演が行われました。

約10年前に公開された映画「みんなの学校」。その当時、木村先生が関わられていた子どもたちの姿を視聴し、その後、その子どもたちがどのように成長をしていったのかというストーリーを木村先生は語られました。そこから見えてくる学校のあり様。すべての子どもの学びを本気で保障してきた学校の営みにより、当時の子どもたちが、様々な困難を乗り越え、自律した大人として活躍している様子を目の当たりにし、私たちが自身のありようを自ずと問い直したくなる時間となりました。

木村先生からの「みんなの学校をつくるために、教員に不可欠な力はたった一つ。それは何だと思えますか。」という問いに、会場では、一人一人が考えを近くの方と共有し合います。

先生は「実は、正解はないんです。子どもはみんな違うよ。3000人いたら3000通りの正解がそこにあるやろ。だから、自分一人で解決するのは無理って。その土俵に立てへん限り、みんなの学校はつくれないと思うんです。」と語られ、大空小学校での経験から、教員に不可欠な力を『人の力を活用する力』と話されました。

実践から語られる木村先生の熱く温かい言葉に、この日集まった教職員の皆さんは大きく力づけられ、勇気づけられたことと思います。木村先生の「子どもを主人公」とした実践のように、教職員一人一人の風呂敷敷を「結」んで、すべての子どもたちの自分らしい学びを、大きな風呂敷敷で包み込んで支える学校のあり方を考えるきっかけを与えていただきました。

木村先生からの最後のメッセージ、夏休み明け「おかえりなさい」で子どもたちを迎え入れましょう。



研修の振り返り

【参加者から】

多くの感想をお寄せいただきました。ありがとうございました。
一部をご紹介します、共有したいと思います。

☆伊佐治教育長のお話と、ご講演の木村先生のお話から、すべての子どもを大切にすることの重要性を再確認しました。1学期の実践を振り返り、本校のすべての子どもたちにとってよりよい学びを保障する学校をつくることについて、この夏休みに考えていきたいと思っています。そのためにも、先生たちと対話する時間を大切にしていきたいと改めて思いました。

☆松本市の教育に関する姿勢がつくづく素晴らしいと感じることができた研修会でした。子どもの学習する権利についてももう一度しっかりと考えたいと思いました。

☆教育長の話の学都松本のシンカの中にあった、子ども自らが学ぶ喜びを感じられる、子どもが主役の学校づくりを推進していくために、松本市独自の研修会の開催は必要であると感じた。

☆木村先生のご講演に力をいただくと同時に、先生方と一緒に助け合い、補い合って、明るく楽しい職員集団をつくっていくことが、子どもたちの学びを保障することにつながることを感じました。

☆「人を活用する力」は事務職員が取り組んでいるつなぐ研究に大きくつながると思いました。

☆自分一人ではなく、相談しながら子どもと向き合っていくこと、すべての子どもたちが安心できる環境を作る事を2学期から頑張りたいと思いました。